



東大
酒井教授

教育現場への影響 専門家に聞く

デジタル教科書の使用については、専門家の間でも賛否が分かれる。札幌国際大の岩崎有朋教授（情報学）と、東京大の酒井邦嘉教授（言語脳科学）に考えを聞いた。

（聞き手・本郷由美子）

紙とペンが思考力育てる

私は、デジタル教科書を使うことに一貫して反対してきました。紙の教科書は見開きで、繰り返し読むことを前提に作られており、それを電子化しても文字としての情報は同じかもしれませんが、使い方はまったく異なります。教科書とともに紙のノートもデジタル化される可能性があり、学習への影響が大変大きいと考えています。

例えば、黒板の板書や紙の教科書は、頭に一時的に焼き付けて初めてノートに書き写せます。デジタル教科書になれば、文章や図形をコピー、ペーストするだけ。自分で理解するという学びの根底にある記憶や思考がなくなってしまう。デジタルのノートも、選択などで指を使うことが多く、ペンで字を書けなくなりやす。QRコードから簡単に動画などを見られるこ

とも問題です。文末まで読む間に次々とリンク先に飛んでしまい、本文は何も頭に入らなくなる。端末からは交流サイト（SNS）や人工知能（AI）にもアクセス可能で、受動的にしか情報を得られなくなり、極めて危険です。

そして、紙かデジタルかの選択は、各教育委員会に丸投げされます。デジタル化を進めようとする風潮に流されることもありえます。子どもや保護者に選択の権利がないなら、教育基本法が定める学問の自由の尊重に反するので

は。海外やわれわれの調査では、画面より紙、キーボードよりペンを使うほうが理解度や記憶の定着率が高いという結果が示されています。たとえデジタル教科書が普及しても紙と比べた学力調査を行って検証し、問題点を把握して紙に戻すべきでしょう。